

# 岐阜殖産(株)

神戸町・製造

従業員数／男性152名 女性34名 計186名 ※令和4年11月現在

エクセレント  
POINT

- ①治療・介護・育児と両立するための支援を実施
- ②様々な職場での「業務見える化」を実施
- ③女性の活躍を推進するプロジェクトの立ち上げ



岐阜労働局長に、時間外労働削減や年休取得の実践例を紹介する杉山社長(左)。

岐阜殖産では、育児・介護中の人が東レを定年退職し再就職した人、障がいのある人など、多様な背景を持つ社員を支えるため、こまめに面談を行い、多様な制度の活用を提案している。1歳未満の子どもを育てながら働く社員には、短時間勤務とは別に1時間の休みが取れる「有給育児時間」制度を設けている。子どもが3ヵ月の時に職場復帰したフィルム検査課の今城明理さんにも活用を提案。今城

さんは昼休みと有給育児時間をつなげて毎日2時間の休みを作り、その時間を利用して会社近くの実家に預けていた娘に会に行くことができた。「授乳もできだし、娘の成長を感じながら仕事ができてよかったです」と振り返る。

また、病気で長期間休職している社員に対しては、本人と合意の上、主治医からの意見聴取や家族との面談を行い、現状を把握。会社としてできる支援を伝えるなど、主治医や家族と一緒にとなって職場復帰支援を行う。

休暇の取得促進では、上司も含めて仕事の幅を広げることで他の社員のフォローを可能にし、休暇をカバーし合える環境づくりを進めた。時間外労働削減では、終業時刻15分前に終礼を行うことで定期退社を促すとともに、「仕事を翌日に回せることは、翌日に」との声掛けにより、気兼ねなく退社できる環境づくりを実施。そのような取組みを



フィルム検査課で働く今城明理さん。子どもが3ヵ月の時に職場復帰し、1歳になるまでは有給育児時間を活用して、昼間にも娘との時間を作ることができた。

杉山社長は「人を重視するためには働き方改革、その第一歩は時間外労働の削減、また年休取得率向上のためにも休みやすい状況を作っていく」と話す。

## 一人一人に寄り添う職場づくり